（２） きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Pythium cucurbitacearum* *Pythium debaryanum* *Rhizoctonia solani*	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気をよくし、床内を乾かす。 4.発病株は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒剤については消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2.リゾレックス水和剤、モンカット水和剤、モンカットフロアブル４０、バリダシン液剤５、ダコニール１０００は苗立枯病（リゾクトニア属菌）に登録がある。 3.タチガレン液剤は苗立枯病（ピシウム属菌）と苗立枯病（フザリウム属菌）に登録がある。	土壌消毒	－	クロールピクリン
			－	ドロクロール
			－	クロルピクリン錠剤
			－	クロピクテープ
			－	バスアミド微粒剤
			－	ガスタード微粒剤
			－	キルパー
		種子消毒	7	モンカット水和剤
			14	リゾレックス水和剤
			M4	オーソサイド水和剤８０
		播種時	14	リゾレックス水和剤
		播種時～子葉展開時	7	モンカット水和剤
			7	モンカットフロアブル４０
		播種直後	32	タチガレン液剤
			U18	バリダシン液剤５
		播種時又は活着後但し、定植14日後まで	M5	ダコニール１０００
		は種後から2～3葉期まで	M4	オーソサイド水和剤８０
2 つる割病 *Fusarium oxysporum* f. sp. *cucumerinum*	1.カボチャ台木を使用する。 2.畑は５～６年、水田は２～３年以上輪作する。 3.キュウリを加害する菌はマクワウリ、メロンを侵すので、うり類の連作は特に避ける。 4.石灰質肥料を施し、酸性を矯正する。 5.発病株は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ベンレートＴ水和剤２０は種子浸漬処理と種子粉衣処理を併用しない。 2.土壌消毒剤についてはⅢ－14. 土壌病害の防除の項参照。 3.キルパー、バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤は多発圃場では効果が劣る場合がある。	種子消毒	M3･1	(混)ベンレートＴ水和剤２０
		土壌消毒	－	クロピクテープ
			－	バスアミド微粒剤
			－	ガスタード微粒剤
			－	キルパー
			－･－	(混)ソイリーン
		定植前～定植１か月後	1	ベンレート水和剤
3 炭疽病 *Colletotrichum orbiculare*	1.ポリマルチや敷わらを行う。 2.排水をよくする。 3.窒素肥料の多用を避ける。 4.被害果や被害葉は除去し、処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アミスター２０フロアブル、アミスターオプティフロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	育苗期(２～３回) 本畑 (発病前から７～10日おき)	1	トップジンＭゾル
			11	アミスター２０フロアブル
			11	スクレアフロアブル
			52	ミギワ１０フロアブル
			M1	キノンドー水和剤４０
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	ドキリンフロアブル
			M3	ジマンダイセン水和剤
			M3	ペンコゼブ水和剤
			M3	ペンコゼブフロアブル
			M4	オーソサイド水和剤８０
			M5	ダコニール１０００
			M5	ダコニール粉剤
			M7	ベルクート水和剤
			10･1	(混)ゲッター水和剤
			10･1	(混)ニマイバー水和剤
			3･M3	(混)テーク水和剤
			7･M5	(混)ベジセイバー
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			21･M5	(混)ドーシャスフロアブル
			40･M5	(混)カーニバル水和剤
			M7･19	(混)ダイアメリットＤＦ
			M2･M1	(混)園芸ボルドー

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
4 つる枯病 *Didymella bryoniae*	1.被害植物のついた支柱やハウス資材はよく消毒する。 2.ポリマルチや敷わらをする。 3.排水をよくする。 4.発病株は除去し、処分する。	種子消毒	M3･1	(混)ベンレートT水和剤20
		発病初期	1	トップジンMペースト
		育苗期 (2～3回) 本畑 (発病前から 7～10日おき)	1 1 2 2 2 52 M3 M7･53	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 ロブラール500アクア スミレックス水和剤 ミギワ10フロアブル ジマンダイセン水和剤 (混)フセキワイドフロアブル
5 べと病 *Pseudoperonospora cubensis*	1.発病苗は本圃の伝染源となるので植付けない。 2.ポリマルチや敷わらをする。 3.肥料切れになると発生しやすいので、葉面散布剤を使用し、草勢の維持管理に努める。 4.日射、通風をよくするため、適度の摘葉をする。 5.多湿条件で発病しやすいので湿度管理に注意する。 6.暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ストロビーフロアブル、アミスター20フロアブル、アミスターオプティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 2.本病害を対象にリドミルゴールドMZで防除を実施しているところでは、炭疽病、褐斑病の発生が少ない。 3.クリーンワイドフロアブルは、幼苗期の処理で薬害を生じやすいため、なるべく生育中期以降に散布する。 4.クリーンワイドフロアブルは、高温期の散布で薬害を生じやすいため、高温期の散布は避ける。 5.クリーンワイドフロアブルは、黒いぼ系きゅうりで薬害を生じるおそれがあるので使用にあたっては注意する。	育苗期 本畑発病前から	11 11 21 39 40 49 P7 U17 M1 M1 M1 M1 M1 － M3 M3 M3 M3 M5 3･M3 4･M3 4･M5 7･M5 11･M5 21･49 21･M5 27･11 24･M1 24･M1 27･40 27･M3 27･M5 43･40 40･M1 40･M3 40･M3 40･M5 40･M5 M1･M5 M2･M1 M2･M1 M4･P7	ストロビーフロアブル アミスター20フロアブル ランマンフロアブル ハチハチ乳剤 フェスティバル水和剤 ゾーベック エニケード OD アリエッティ水和剤 ピシロックフロアブル キノンドー水和剤40 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル ヨネポン ヨネポン水和剤 サンヨール ジマンダイセン水和剤 ジマンダイセンフロアブル ペンコゼブ水和剤 ペンコゼブフロアブル ダコニール1000 (混)テーク水和剤 (混)リドミルゴールドMZ (混)フォリオゴールド (混)ベジセイバー (混)アミスターオプティフロアブル (混)ゾーベックエンテクタSE (混)ドーシャスフロアブル (混)ホライズンドライフロアブル (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤 (混)ベトファイター顆粒水和剤 (混)カーゼートPZ水和剤 (混)ブリザード水和剤 (混)ジャストフィットフロアブル (混)フェスティバルC水和剤 (混)ベネセット水和剤 (混)カンパネラ水和剤 (混)プロポーズ顆粒水和剤 (混)カーニバル水和剤 (混)シトラーノフロアブル (混)園芸ボルドー (混)クリーンワイドフロアブル (混)アリエッティC水和剤
6 黒星病 *Cladosporium cucumerinum*	1.低温多湿で発生しやすいため、施設栽培では保温に努めるとともに、換気をよくする。 2.被害果や被害葉は除去し、処分する。 3.被害植物のついた支柱やハウス資材はよく消毒する。	育苗期 (2～3回) 本畑 (発病前から 7～10日おき)	3 M3 M5 7･M5 40･M5	トリフミン水和剤 ジマンダイセン水和剤 ダコニール1000 (混)ベジセイバー (混)プロポーズ顆粒水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	 RACコード	 薬剤
7 褐斑病 *Corynespora cassiicola*	1.窒素肥料の多用を避ける。 2.被害葉は除去し、処分する。 3.ハウス栽培では換気を図り、多湿を防ぐ。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アミスター２０フロアブル、アミスターオプティフロアブル、ストロビーフロアブルは、浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。 2.クリーンワイドフロアブルは、幼苗期の処理で薬害を生じやすいため、なるべく生育中期以降に散布する。 3.クリーンワイドフロアブルは、高温期の散布で薬害を生じやすいため、高温期の散布は避ける。 4.クリーンワイドフロアブルは、黒いぼ系きゅうりで薬害を生じるおそれがあるので使用にあたっては注意する。	育苗期 （２～３回） 本畑 （発病前から ７～10日おき）	9 11 11 12 M1 M3 M3 M3 M5 10･1 10･1 10･2 3･M3 4･M5 7･M5 11･M5 21･M5 27･M5 40･M3 40･M3 40･M5 40･M5 M1･M5 M2･M1 M2･M1 M7･19 M7･M4 NC･M1	フルピカフロアブル アミスター２０フロアブル ストロビーフロアブル セイビアーフロアブル２０ ヨネポン水和剤 ジマンダイセン水和剤 ジマンダイセンフロアブル ペンコゼブ水和剤 ダコニール１０００ （混）ゲッター水和剤 （混）ニマイバー水和剤 （混）スミブレンド水和剤 （混）テーク水和剤 （混）フォリオゴールド （混）ベジセイバー (混)アミスターオプティフロアブル （混）ドーシャスフロアブル （混）ブリザード水和剤 （混）カンパネラ水和剤 （混）ベネセット水和剤 （混）プロポーズ顆粒水和剤 （混）カーニバル水和剤 （混）シトラーノフロアブル （混）園芸ボルドー (混)クリーンワイドフロアブル （混）ダイアメリットＤＦ （混）ダイパワー水和剤 （混）ジーファイン水和剤
8 疫病 *Phytophthora melonis* *Phytophthora nicotianae* var.*parasitica*	1.連作を避け、圃場の衛生に努める。 2.圃場の排水をよくするとともに、高うねにする。 3.水を茎葉にかけない。 4.ポリマルチをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒についてはⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照	土壌消毒 発病前から	－ M3	ドロクロール ジマンダイセン水和剤
9 疫病（立枯） *Phytophthora melonis*	1.連作を避け、圃場の衛生に努める。 2.圃場の排水をよくするとともに、高うねにする。 3.ポリマルチや敷わらをする。 4.カボチャ台木を使用する。	播種直後または 発病初期	28	プレビクールＮ液剤
10 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.換気を図り、多湿を防ぐ。 2.被害果は除去し、処分する。 3.花弁を除去する。 4.ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 5.暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ゲッター水和剤はベンゾイミダゾール系薬剤耐性菌に効果がある。 2.カンタスドライフロアブルは、高温条件や散布後急激に乾燥すると葉焼けや日焼け果の発生を助長するおそれがあるので注意する。また、浸透性を高める効果のある展着剤や葉面液肥を加用すると薬害を生じるおそれがあるので避ける。 3.アミスター２０フロアブル、アミスターオプティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	発病前から	1 1 2 2 2 7 7 7 7 7 9 11 11 12 19 19 52 52 M5 M7 M7 3･M3 7･M5 7･9	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 ロブラール５００アクア スミレックス水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル パレード２０フロアブル ネクスターフロアブル カナメフロアブル フルピカフロアブル アミスター２０フロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 セイビアーフロアブル２０ ポリオキシンＡＬ水溶剤 ベジターボＤＦ ミギワ１０フロアブル アイーナ２０フロアブル ダコニール１０００ ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル （混）テーク水和剤 （混）ベジセイバー （混）ピカットフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
10 灰色かび病のつづき		発病前から	U13･9	(混)ショウチノスケフロアブル
			10･1	(混)ゲッター水和剤
			10･1	(混)ニマイバー水和剤
			10･2	(混)スミブレンド水和剤
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			17･12	(混)ジャストミート顆粒水和剤
			M7･19	(混)ポリベリン水和剤
			M7･19	(混)ダイアメリットＤＦ
			M7･50	(混)ラミック顆粒水和剤
			M7･17	(混)ダイマジン
		ハウス内防除(くん煙)	2	ロブラールくん煙剤
			2	スミレックスくん煙顆粒
			9	フルピカくん煙剤
		ハウス内防除(常温煙霧)	1	ベンレート水和剤
			2	ロブラール水和剤
			2	スミレックス水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
11 菌核病 *Sclerotinia Sclerotiorum*	1.ポリマルチや敷わらを行う。 2.花弁を除去する。 3.多発圃場では、収穫後湛水をして、土壌中の菌核を死滅させる。 4.連作を避ける。 5.被害果は除去し、処分する。 6.暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.カンタスドライフロアブルは、高温条件や散布後急激に乾燥すると葉焼けや日焼け果の発生を助長するおそれがあるので注意する。また、浸透性を高める効果のある展着剤や葉面液肥を加用すると薬害を生じるおそれがあるので避ける。 2.アミスター２０フロアブル、アミスターオプティフロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤は薬害のおそれがあるので使用しない。	発病前から	1	トップジンＭ水和剤
			1	トップジンＭゾル
			1	ベンレート水和剤
			2	ロブラール水和剤
			2	スミレックス水和剤
			7	カンタスドライフロアブル
			7	パレード２０フロアブル
			7	カナメフロアブル
			11	アミスター２０フロアブル
			11	スクレアフロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			12	セイビアーフロアブル２０
			52	ミギワ１０フロアブル
			52	アイーナ２０フロアブル
			M7	ベルクートフロアブル
			10･1	(混)ゲッター水和剤
			10･1	(混)ニマイバー水和剤
			10･2	(混)スミブレンド水和剤
			11･M5	(混)アミスターオプティフロアブル
			17･12	(混)ジャストミート顆粒水和剤
			M7･17	(混)ダイマジン
			M7･19	(混)ダイアメリットＤＦ
		ハウス内防除(くん煙)	2	ロブラールくん煙剤
			2	スミレックスくん煙顆粒
12 うどんこ病 *Oidiopsis sicula* *Sphaerotheca cucurbitae* *Erysiphe polygoni* *Golovinomyces orontii*	1.窒素肥料の過多は本病の発病を助長するので、施肥基準に従って適正に施用する。 2.昼夜の温度差が大きくなると発病が多くなる。 3.クリーンワイドフロアブルは、幼苗期の処理で薬害を生じやすいため、なるべく生育中期以降に散布する。 4.クリーンワイドフロアブルは、高温期の散布で薬害を生じやすいため、高温期の散布は避ける。 5.クリーンワイドフロアブルは、黒いぼ系きゅうりで薬害を生じるおそれがあるので使用にあたっては注意する。	発生初期	3	サプロール乳剤
			3	ルビゲン水和剤
			3	トリフミン水和剤
			3	トリフミン乳剤
			3	ラリー水和剤
			3	セーフガード乳剤
			7	アフェットフロアブル
			7	カナメフロアブル
			7	ケンジャフロアブル
			9	フルピカフロアブル
			M1	ヨネポン
			M1	ヨネポン水和剤
			-	サンヨール
			19	ポリオキシンＡＬ水和剤
			19	ポリオキシンＡＬ水溶剤
			19	ポリオキシンＡＬ乳剤
			19	ベジターボＤＦ
			39	ハチハチ乳剤
			50	プロパティフロアブル
			M5	ダコニール１０００
			M7	ベルクート水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			M10	モレスタン水和剤
			M10	パルミノ

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
12 うどんこ病のつづき		発生初期	-	ハッパ乳剤
			-	エコピタ液剤
			7･9	(混)ピカットフロアブル
			U6･3	(混)パンチョＴＦ顆粒水和剤
			3･M3	(混)テーク水和剤
			4･M5	(混)フォリオゴールド
			7･M5	(混)ベジセイバー
			U13･9	(混)ショウチノスケフロアブル
			M7･17	(混)ダイマジン
			M7･19	(混)ダイアメリットＤＦ
			-･19	(混)デュアルサイド水和剤
			21･M5	(混)ドーシャスフロアブル
			27･M5	(混)ブリザード水和剤
			40･M5	(混)プロポーズ顆粒水和剤
			40･M5	(混)カーニバル水和剤
			M2･M1	(混)園芸ボルドー
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
			M7･50	(混)ラミック顆粒水和剤
			M7･53	(混)フセキワイドフロアブル
		ハウス内防除(くん煙)	3	トリフミンジェット
			M2	硫黄粒剤
		ハウス内防除(常温煙霧)	M10	モレスタン水和剤
13 斑点細菌病 *Pseudomonas syringae* pv. *lachrymans*	1.ウリ科以外の作物と輪作を行う。 2.被害茎葉は早めに処分する。 3.ハウス資材は高温時に密閉して数日間蒸し込む。 4.多湿条件で発病しやすいので湿度管理に注意する。 5.ポリマルチ栽培を行う。 6.暖房機使用のハウスでは、暖房の切れたときも通風を続け、結露を防止する。 7.資材を消毒する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.幼苗期には有機銅（キノンドー水和剤４０、キノンドーフロアブル、ドキリンフロアブル）を使用し、無機銅水和剤（コサイド３０００、Ｚボルドー、ムッシュボルドーＤＦ）は本葉５～６枚以降に使用する。 2.本病対象に防除を実施しているところでは、縁枯細菌病、軟腐病(乾腐症)の発生が少ない。 3.クリーンワイドフロアブルは、幼苗期の処理で薬害を生じやすいため、なるべく生育中期以降に散布する。 4.クリーンワイドフロアブルは、高温期の散布で薬害を生じやすいため、高温期の散布は避ける。 5.クリーンワイドフロアブルは、黒いぼ系きゅうりで薬害を生じるおそれがあるので使用にあたっては注意する。	定植時	P2	オリゼメート粒剤
		発生初期	M1	コサイド３０００
			M1	Ｚボルドー
			M1	ムッシュボルドーＤＦ
			M1	キノンドー水和剤４０
			M1	キノンドーフロアブル
			M1	ドキリンフロアブル
			M1	ヨネポン
			M1	ヨネポン水和剤
			24･M1	(混)カスミンボルドー
			24･M1	(混)カッパーシン水和剤
			NC･M1	(混)ジーファイン水和剤
			M1･M1	(混)キンセット水和剤
			M1･M5	(混)シトラーノフロアブル
			M2･M1	(混)イデクリーン水和剤
			M2･M1	(混)園芸ボルドー
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
			M4･M1	(混)オキシラン水和剤
14 ズッキーニ黄斑モザイクウイルスの感染によるモザイク症及び萎凋症	1.アブラムシ類の防除を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本剤の入っている容器に水を加え５倍希釈液とし、固形物を完全に溶解した後、広口の容器に全量を移し、最終的に25倍希釈液とする。この希釈液に添付のカーボランダムを加えてよく混ぜながら綿棒などを使って展開した一対の子葉又は第１本葉の全面に有傷接種する。	育苗期	-(生)	(生)キューピオＺＹ－０２

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
15 緑斑モザイク病 （ＫＧＭＭＶ）	1. 無病種子を使う。 2. 病苗は早く発見して処分する。 3. 健全苗を植える。 4. 汁液による接触伝染が激しいので、接木、芽かぎ、整枝にあたっては第３燐酸ソーダ液で資材、履物等を消毒する。 5. 発病地には、ウリ類を３～４年栽培しない。 6. 発病株は抜き取って適正に処分する。 7. 遅く発病したものは作業時にふれないようにし、手入れは最後にする。 8. 種子、土壌、接触によって伝染し、アブラムシ類では伝染しない。			
16 アブラムシ類 （ＣＭＶ ＺＹＭＶ）	1. 苗床及び本畑周辺の罹病植物を取り除く。 2. 圃場の周辺に防虫ネットを高さ1.3mぐらいにはったり、シルバーポリマルチ、シルバーストライプマルチ、シルバーテープをするとアブラムシの飛来が少ない。 3. 施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 4. 病株は早めに処分する。 5. カボチャ台キュウリではＣＭＶとＺＹＭＶの混合感染で植物体が萎凋する。 6. 周辺雑草を処理する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. アドマイヤー１粒剤を育苗期後半に使用する場合、直径９㎝以上のポットで育苗した苗に使用することとし、それ以外での使用は薬害を生じるおそれがあるので使用しない。 2. アドマイヤー顆粒水和剤、アドマイヤー水和剤、アドマイヤーフロアブルは施設栽培キュウリに登録がある。 3. アクタラ顆粒水溶剤はミカンキイロアザミウマにも登録がある。 4. 本虫対象にダントツ水溶剤で防除を実施しているところでは、ハモグリバエ類の発生が少ない。 5. ベネビアＯＤをきゅうりに使用する場合、ＴＰＮを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしない。 6. ウララＤＦは吸汁防止効果は速やかに発現するが、殺虫効果は遅効的である。	播種時または鉢上時	4A	ベストガード粒剤
		育苗期	1A	バイデートＬ粒剤
		鉢上時～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期または定植時	4A	アルバリン粒剤
			4A	スターク粒剤
		育苗期後半	4A	アドマイヤー１粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
			28	ヨーバルフロアブル
			4A･28	（混）アベイル粒剤
		定植時	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
			4A	モスピラン粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アクタラ粒剤５
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アドマイヤー１粒剤
		発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	サイハロン乳剤
			3A	スカウト乳剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	ロディー乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	アーデント水和剤
			3A	トレボン乳剤
			3A	トレボンＥＷ
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	スターク顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スターク粒剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	チェス顆粒水和剤
			9B	コルト顆粒水和剤
			21A	ハチハチ乳剤
			21A	ピラニカＥＷ
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアＯＤ
		発生初期	29	ウララＤＦ
			－	サンヨール
			－	エコピタ液剤
		ハウス内防除（くん煙）	3A	マブリックジェット
			4A	モスピランジェット
		ハウス内防除（常温煙霧）	4A	アドマイヤー水和剤

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
17 タネバエ	1.成虫は有機物の腐敗臭に誘引されるので注意する。 2.レタス、ハクサイ、キャベツ等の残根を処分する。	播種時	1B	カルホス粉剤
18 ウリハムシ (ウリバエ)	1.シルバーポリフィルムによるマルチを行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1ベネビアＯＤをきゅうりで使用する場合、ＴＰＮを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしない。	発生初期	3A 4A 4A 4A 13 28	アディオン乳剤 モスピラン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 コテツフロアブル ベネビアＯＤ
19 ハダニ類	1.圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 2.作物残さを放置すれば、ハダニの増殖源となるので、早めに処分する。 3.夏期には栽培終了後ハウスを密閉して高温を保つ。	発生初期	6 6 10B 13 21A 21A 21A 23 25A 30 33 － －･5 －･19 25B･21A	コロマイト乳剤 アグリメック バロックフロアブル コテツフロアブル ダニトロンフロアブル ピラニカＥＷ サンマイトフロアブル モベントフロアブル ダニサラバフロアブル グレーシア乳剤 ダニオーテフロアブル ハッパ乳剤 (混)ダブルシューターＳＥ (混)デュアルサイド水和剤 (混)ダブルフェースフロアブル
		ハウス内防除 (くん煙)	3A 3A	マブリックジェット テルスターエジェット
20 オンシツコナジラミ	1.苗による持ち込みに注意する。 2.施設栽培では、ハウス開口部に防虫ネット(１㎜目合以下)をはり、成虫の飛来を防止する。 3.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 4.被害植物や雑草は除去後、土中に埋るか、ビニール等で密封し半月程度放置する。 5.夏期には、栽培終了後にハウスを密閉して高温を保つ。 6.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アプロード水和剤は、オンシツコナジラミ幼虫に登録がある。	発生初期	3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 16	アディオン乳剤 アグロスリン水和剤 アグロスリン乳剤 サイハロン水和剤 サイハロン乳剤 スカウト乳剤 スカウトフロアブル ロディー乳剤 テルスター水和剤 マブリック水和剤２０ アーデント水和剤 アプローチ水和剤
21 コナジラミ類	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本虫対象にダントツ粒剤で防除を実施しているところでは、ハモグリバエ類の発生が少ない。 2.本虫対象にトレボンＥＷで防除を実施しているところでは、ワタヘリクロノメイガ（ウリノメイガ）の発生が少ない。 3. ベネビアＯＤをきゅうりに使用する場合、ＴＰＮを含む農薬との混用は薬害を生じるおそれがあるので、混用はしない。	播種時 または 鉢上時	4A	ベストガード粒剤
		育苗期 または 定植時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28 28 4A･28	ベリマークＳＣ ヨーバルフロアブル (混)アベイル粒剤
		定植時	4A 4A 4A 4A	アドマイヤー１粒剤 ベストガード粒剤 アクタラ粒剤５ ダントツ粒剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
21 コナジラミ類のつづき		発生初期	3A	トレボンEW
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			6	コロマイト乳剤
			6	アグリメック
			9B	コルト顆粒水和剤
			21A	ハチハチ乳剤
			21A	サンマイトフロアブル
			23	モベントフロアブル
			28	ベネビアOD
			29	ウララDF
			30	グレーシア乳剤
			UN	モレスタン水和剤
			UN	パルミノ
			-	サンヨール
			-	エコピタ液剤
			-・5	(混)ダブルシューターSE
			21A・16	(混)アプロードエースフロアブル
		ハウス内防除 (くん煙)	4A	モスピランジェット
22 ミナミキイロアザミウマ (キュウリ黄化えそ病 MYSV)	1.苗で本圃に持ち込まない。 2.ハウス栽培では近紫外線除去フィルムでハウスを被覆する。 3.シルバーマルチをする。 4.周辺雑草を処理する。 5.ハウス栽培では収穫終了直に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば1日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 6.ハウス開口部に防虫ネット（1㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を軽減する。 7.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 〔キュウリ黄化えそ病対策〕 1.発病株は見つけしだい抜き取り、ポリ袋に密封して圃場外へ持ち出す。 2.施設栽培では開口部に防虫ネットをはったり、周辺に反射シートを敷設するなどして、侵入防止を図る。 3.青色粘着トラップを用いて媒介虫の発生を観察し、発生初期の防除に努める。 4.媒介虫の防除は育苗期から徹底し、本圃に媒介虫を持ち込まないようにする。 5.媒介虫の生息や増殖場所となるので、施設内外の雑草を防除する。また、施設内に栽培に不要な植物を持ち込まない。 6.栽培終了時は施設を密閉処理して媒介虫を死滅させ、圃場外への分散を防止する。 7.キュウリの他、メロン、スイカ、シロウリ等にも発生するので注意する。	播種時または または 鉢上時	4A	ベストガード粒剤
		育苗期	1A	バイデートL粒剤
		鉢上時 ～育苗期後半	28・4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28	ベリマークSC
			4A・28	(混)アベイル粒剤
		定植時	1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース粒剤
			4A	アドマイヤー1粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			6	アファーム乳剤
			6	アグリメック
			13	コテツフロアブル
			15	カスケード乳剤
			21A	ハチハチ乳剤
			23	モベントフロアブル
			28	ヨーバルフロアブル
			-(生)	(生)パイレーツ粒剤
			-・5	(混)ダブルシューターSE

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期等	RACコード	薬剤
22 ミナミキイロアザミウマのつづき	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発生初期に集中的に防除する。 2.ハウス等温度の高いところで越冬するので注意する。 3.アドマイヤー水和剤、アドマイヤー顆粒水和剤、アドマイヤーフロアブル、パイレーツ粒剤は施設栽培のみの登録である。 4.パイレーツ粒剤は対象害虫が落下する範囲内の株周辺に散布する。 5.本虫対象にダントツ水溶剤で防除を実施しているところでは、ハモグリバエ類の発生が少ない。	ハウス内防除（くん煙）	4A	モスピランジェット
		ハウス内防除（常温煙霧）	-･5	（混）ダブルシューターＳＥ
23 ハモグリバエ類	1.外部から苗を導入する際には虫の有無に注意する。 2.ハウス開口部に防虫ネット（１㎜目合以下）をはり、成虫の飛来を防止する。 3.マルチ栽培は土中での蛹化防止に有効である。 4.被害植物や雑草は除去後に土中に埋るか、ビニール等で密封し半月程度放置する。 5.改植時には土壌消毒を行い、蛹を死滅させるか、次回の作付まで20日程度おいて、羽化してきた成虫を餓死させる。 6.周辺及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.侵入防止対策のとれているハウスでは、黄色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 8.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムにより全面被覆し(夏場の晴天日であれば１日処理が目安)、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アルバリン粒剤、スタークル粒剤を処理しているところでは、ミナミキイロアザミウマの発生が少ない。	育苗期 または 定植時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		鉢上時 ～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28 28	プレバソンフロアブル５ ヨーバルフロアブル
		発生初期	5 28 28 UN -･5	スピノエース顆粒水和剤 プレバソンフロアブル５ ヨーバルフロアブル プレオフロアブル （混）ダブルシューターＳＥ
24 トマトハモグリバエ		定植時	4A	アクタラ粒剤５
		発生初期	3A 6 15 30	アグロスリン乳剤 アファーム乳剤 カスケード乳剤 グレーシア乳剤
25 ワタヘリクロノメイガ （ウリノメイガ）	1.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下)で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。	若齢幼虫期	4A 4A 5 6 11A 11A 21A 28 28 28 30 -･5	モスピラン顆粒水溶剤 バリアード顆粒水和剤 スピノエース顆粒水和剤 アファーム乳剤 ゼンターリ顆粒水和剤 ジャックポット顆粒水和剤 ハチハチ乳剤 フェニックス顆粒水和剤 プレバソンフロアブル５ ヨーバルフロアブル グレーシア乳剤 （混）ダブルシューターＳＥ
26 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）等で被覆すれば､飛来､産卵を防止できる。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発育が進むと薬剤の効果が極端に落ちるので早めの防除を心がける。 2.防除した後も成虫が飛来産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。	発生初期	6 28 30	アファーム乳剤 ヨーバルフロアブル グレーシア乳剤

きゅうり

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期等	RACコード	薬剤
27 センチュウ類	1. 水田に転換可能な畑では、２～３年に１回の割合で水田に戻す。 2. 苗からの持ち込みを防止するるため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1. 消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。 2. ソイリーンとダブルストッパーはネコブセンチュウとネグサレセンチュウに、クロピクテープ、キルパー、ＮＣＳはネコブセンチュウに登録がある。 3. パストリア水和剤は、蒸気などの高温消毒、クロルピクリン、は有効成分が死滅するので、併用を避ける。 4. パストリア水和剤、ネマトリンエース粒剤、ラグビーMC粒剤、ネマキック粒剤はネコブセンチュウに登録がある。 5. バイデートＬ粒剤はネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウに登録がある。	土壌消毒	8B	クロールピクリン
			8B	ドロクロール
			8B	クロピクテープ
			8F	キルパー
			8F	ＮＣＳ
			8A･8B	(混)ソイリーン
			8A･8B	(混)ダブルストッパー
			8A･8F	(混)ディ・トラペックス油剤
		播種または定植前	1A	バイデートＬ粒剤
			1B	ネマトリンエース粒剤
		定植前	1B	ラグビーＭＣ粒剤
			1B	ネマキック粒剤
			-(生)	(生)パストリア水和剤